

CONTENTS

● MIDI規格委員会からアクティブ着メロの普及に向けてMMI規格を発表	1
● 2007 委員会中間活動報告	2・6
● 第11回 AMEI NAMM2008 ビジネスツアー会員募集要項	7
● AMEI会員名簿・新入会員のご紹介・MIDI検定2級2次（実技）試験実施のお知らせ	8

MIDI規格委員会から アクティブ着メロの普及に向けて MMI規格を発表



MMI具体例 紹介セミナー（東京・神田 岩波セミナールーム）

MIDI規格委員会MIDI1.0部会アクティブ着メロWGでは携帯端末におけるMIDI規格との新しい楽しみ方の開発を目指し、「モバイル・ミュージカル・インターフェース仕様（MMI仕様）」の検討を続けてきましたが、MMI仕様は7月11日サンフランシスコにおけるMMA・AMEI合同会議において推奨規格であるRP-048として合意に達しました。

さらに、AMEI全会員に対して、MMI準拠アプリ開発メーカーの募集、MMIロゴマークのデザイン募集と展開してきました。

着メロ市場に新たなビジネスチャンスを起こすためCPにもエンドユーザにもわかりやすいロゴマークのデザインを会員各社より募集したところ、6種のデザインの応募があり、MIDI規格委員会にて審査の結果、株式会社河合楽器製作所提供のデザインを採用する結果となりました。（このロゴマークのデザインは同社生産統括部所属の滝川輝男さんです）

MMI規格の更なる推進を図るため、MMI規格説明およびMMI準拠アプリ開発メーカーによるアプリ具体例の紹介セミナーが11月8日東京神田神保町の岩波セミナールームで42名の参加者のもと、開催されました。



2007 委員会中間活動報告

1 MIDI規格委員会

MIDI規格委員会では今期全体会議を3回開催しました。(4/11、7/02、9/12)

MIDI規格委員会は、今期、次世代MIDI部会、MIDI1.0部会の両部会でスタートしました。

次世代MIDI部会については、4回の部会開催と、2回（東京、サンフランシスコ）のMMAとの合同会議を開催し、特に4月に行われたMMAとの合同会議では、プロトコルのフレームワークについてMMA側と合意することが出来ました。しかしながら、審議を進めていくうちに、あらたに新規格の市場や現行ビジネスへの影響が予想以上に大きく、さらに市場の新規格移行に対する課題も多いため、業界として新規格を規定するのは時期尚早、長期的な視点に立ち返る必要があるとの判断から、次世代MIDI部会を解散しました。代わって、本年10月より新たに「技術研究部会」を立ち上げ、電子音楽を取り巻く案件全般を継続的、且つ広範囲に議論できる場を設けることといたしました。前部会で議論してきた内容を掘り下げ、トランスポートの研究、映像制御の研究、コントロールインターフェースの研究及び、他規格の勉強会といった議題に取り組んでいきます。新規格のMMAとの検討についても新部会で継続します。

10月よりスタートした、技術研究部会は、2回の部会を開催しました。MIDI機器の利用者との意見交換や、MIDI規格委員会内で検討した成果を残す仕組み等の議論を行っています。

MIDI1.0部会ではMMAとの間で審議中であった5つのアイテムにつき、MMAとの合同会議などを重ね、RPとして合意されました。特に「アクティブ着メロWG」で作成したMMI (Mobile Musical Interface) 規格についてはMMAとの間でRP-048として合意に達したことや、日本国内において規格との合致についての検証方法や、MMI規格ロゴについて検討を重ねてきました。その後、MMIを標準仕様として推進するにあたり、MMI仕様に対応したアプリを開発中、あるいは開発を予定・検討している会員企業に呼びかけました。

この背景としては、日本の場合はキャリアの賛同なしでは規格は採用されず、そのためにはアプリを開発する必要があります。また、実際にMMI仕様を運用するにあたっては、アプリ上での検証作業が必要ですが、業界団体のAMEIが特定キャリア向けアプリを開発することはできず、そこで会員企業自社の業務として、MMI仕様を使ったアプリを開発中または開発予定の会員企業に呼びかけました。

2 著作権・ソフト委員会

著作権・ソフト委員会は、音楽配信部会（NMRCを通じて活動）、カラオケ部会及びGCP-WG（楽器内蔵コンテンツの保護に関するWG）とDMN-WG（インタラクティブ配信における演奏データの可視的利用に関するWG）の2つのWGからなるソフト・規格部会の3つの部会活動と委員会活動の情報共有及び意見交換の場としての定例会とで成り立っています。

定例会は毎月第2木曜日（8月は除く）に神保町の岩波セミナールームにて毎回40名を越える参加者のもとに実施されています。

また、著作権・ソフト委員会メンバーを中心とした管理事業法勉強会が、これまで4回にわたり開催されました。きっかけは著作権等管理事業法制定時に盛り込まれていた「3年後に見直す」という文言が実施されなかったからです。管理事業法の不備の為に、使用者であるAMEI会員企業、特に実務担当者の負担は施行前にくらべ莫大なものとなっています。勉強会では「迷惑の根本」が管理事業法のどの文言のせいなのか、法律文を読み合わせすることからスタートしましたが、毎回21名以上の参加があり第一期は終了しました。第二期勉強会では問題点の指摘と改善策の検討までを目指し、下期中に初回開催される予定です。専門知識を持っている方の積極的なご参加をお待ちしております。

各部会の11月までの活動状況を、以下ご報告いたします。



●音楽配信部会では、NMRC構成団体主要メンバーとして、JASARCと「音楽以外の著作物を利用することを主たる目的として配信する場合の商用配信規程」の見直しにつき、協議を進めています。背景としては、技術進歩による携帯のデータ容量の拡大に伴い、音楽以外のコンテンツが登場したことにより、電子出版、動画等権利者が複数にまたがるコンテンツでは、現状のJASRACの使用料率ではあまりに高額になってしまう事にあります。協議の進め方として、カテゴリー別にワーキンググループ（WG）

を組織し、各WGは関連する使用者団体とも連携をとりつつJASRACと協議をし、その結果を踏まえ最終NMRCとして合意に向け協議をするという事でJASRACとは合意をしています。

WGは3カテゴリとしWG1では、電子出版を対象としています。座長は(社)デジタルメディア協会の丹呉氏が勤め、関連団体としては、(社)日本書籍出版協会、(社)日本雑誌協会、デジタルコミック協議会、電子文庫出版社会の4団体で構成される「歌詞WG」と情報交換、意見交換をしながら進めています。

WG2は動画コンテンツを対象とし、(社)日本レコード協会の高杉氏が座長となり、関連団体の(社)日本映画製作者連盟と(社)日本映像ソフト協会と意見交換をしながら進めています。

WG3の座長は著作権・ソフト委員会戸叶副委員長が座長となり、教育をテーマとした分科会とゲームをテーマとした分科会で構成し、教育は戸叶座長が、ゲームのテーマは(社)コンピュータソフトウェア著作権協会が担当します。音楽以外の分野で広く関連団体とも意見交換をしながらの活動になりますので、従来以上に大変ではありますがスピードのある解決に向けて活動中です。他のテーマとしては、着うたで音楽と歌詞が1ファイルになったものの取り扱い及びサブスクリプションモデルの下支えの読み替えについてJASRACへ提案をしていて、回答を待っているところです。カラオケ型大量ストリームサイトの使用按分検討ではJASRACを除く各管理事業者との協議は2006年度分まで合意し、既にご案内済となっています。

また、NMRCでは利用事業者、管理事業者ともに著作物利用の報告処理の為のエネルギーが大きく負担になっている現状に対し、双方の実務担当者の負担の軽減を目的として著作権管理事業者と意見交換をしながら改善へつなげていく「NMRC実務WG」と、原盤使用の報告フォーマットの標準化に向けて原盤権利者と協議を重ねている「NMRC拡大実務WG」があります。

「NMRC実務WG」は、WG会議を1回、JASRACとの意見交換を1回実施、「NMRC拡大実務WG」はWG会議を2回(社)音楽出版社協会(MPA)との協議を3回開催し、最終合意に近づきつつあります。

●カラオケ部会は、JASRACと料率の減額及びデータ提供について2年越しの協議を続けていますが、未だ最終合意には至っていません。

株式会社イーライセンスとも「業務用通信カラオケ」の規定について協議を重ねていますが継続協議中となっています。

また、警察庁から「飲酒運転抑止対策への協力について(依頼)」を受けた形でカラオケ事業各社では、各社の目次本に「ハンドルキーパー運動」の告知を行っています。カラオケ事業者協会の「ハンドルキーパー応援ソング」にも後援をしています。

●ソフト・規格部会は、4月に部会を実施、GCP-WG(楽器内蔵コンテンツの保護に関するWG)では、毎月WGを開催、弁護士や法科大学院教授を交えた勉強会等を通じて楽器に内蔵されるコンテンツの不正利用に対してのAMEIとしての統一見解をまとめるべく最終的な調整に取り組んでいます。

DMN-WG(Digital Music Notation: インタラクティブ配信における演奏データの可視的利用に関するWG)では、今年度よりの新たなテーマとして「外国人作曲家楽譜、いわゆる洋楽譜の配信許諾に向けての活動」を強化すべくWG会議及び勉強会を実施しました。

各部会とも、引き続き活発な活動を継続するとともに定例会にて情報共有、意見交換をしていく所存ですので宜しくお願いいたします。

3 製品安全・環境委員会

【合同セミナー実施: 中国版RoHS・電気用品安全法(PSE)】

製品安全・環境委員会では、平成19年度事業計画に基づき、6月27日(水)にて標題の合同セミナーを開催いたしました。

今回のセミナーでは、昨今の電気・電子製品に関する国内外の安全規格・環境法令の変化や要求事項が多様化する背景を踏まえ、安全規格部会および環境問題研究部会の二専門部会合同にて企画、現在進行中の直面する二つの異なるテーマに基づいた講演を実施いたしました。

大テーマとしては【電気用品安全法(PSE)】、【中国版RoHS規制】、と言う周知のテーマではありますが、講演内容は、それら法規制施行後の現状、最新の解釈および現場実務に関する要点を中心に企画されたものです。

これらのテーマへの関心は高く、当初予約していた会場の制限人数を越える参加希望者となり、開催直前に一回りキャパの大きな会場へと予約変更し、総勢65名のご参加を頂きました。



板橋委員長

製品安全・環境委員会 合同セミナー実施風景

講師の湛氏(左)と大西氏(右)

第一部 環境問題研究部会セミナー 13:10-14:50

テーマ：【中国版RoHS規制の最新動向】

◆2007年3月1日に施行された中国版RoHSは、実務面の対応において未だ不明確な点も多い。JEITA北京事務所からの情報を中心に最新の現場情報と解釈を紹介。

講師：社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)
環境部長 湛 久徳 様

第二部 安全規格部会セミナー 15:00-16:50

テーマ：【電気用品安全法 (PSE) への対応】

◆製造事業者、輸入事業者に対する規制概要(基準適合確認及び自主検査等)、技術基準省令第1項・第2項の取扱い、電源コードセットおよび旧電取甲種のACアダプターの取扱い、官公庁宛の各種手続業務、製品の対象・非対象の判断・法遵守のアドバイス等について、施行後でのより実務的要点と解釈について紹介。

講師：株式会社コスモス・コーポレーション
電安事業部 課長 大西 弘純 様

閉会：17:00

セミナー後はアンケート調査を実施し、65名参加中50名の方よりご回答を頂きました。回答の中には、役に立った・次回も期待している等のポジティブなご意見の他、中国側当局の開示確定情報が少ないという背景もあり、2008年に予定されている中国版RoHSの第二ステップに関する情報が少なかったこと、およびPSEに関しては、事前に集めた質問事項への一部回答が持ち越されたことなど、今回セミナー内容への率直なご意見の他、今後の企画に関する具体的なテーマ・内容へのご要望も多数頂き、当委員会としても今後の活動に向けて有意義なものになりました。

寄せられたご意見を参考に、今後とも、会員各位の製品の安全性確保と環境問題への対処に関する諸情報に関し、外部情報の提供とその共有化を目的とする企画・活動を進めていきます。

4 メディアコンテンツ委員会

2007年度のメディアコンテンツ委員会の活動として2007年9月に2つのセミナーを開催した。9月10日には作曲家ジャン・クロード・リセ氏の講座、21日には尚美学園大学内に設置された富田勲研究室の活動紹介を含むセミナーが開催された。

1. ジャン・クロード・リセ特別講座

ちょうど来日中のリセ氏をゲストとして筆者が所属する尚美学園大学作曲、音楽メディア両コースの主催の特別講座であったがコンピュータ音楽創成期のパイオニアが語る内容はAMEI会員の方々にも興味や新たな発見があらうと考え参加していただいた。ジャン・クロード・リセ氏はベル研究所でコンピュータ音楽の父であるマックス・マッシュューズ等と一緒に研究創作活動をしていた方で70年代にはIRCAMのコンピュータ部門を発展させ、MITのメディア研究所の委嘱作曲家であったり、われわれが制作で使っているコンピュータミュージックのアイデアを数多く切り開いていったパイオニアの一人である。

リセ氏の講義は音楽音響心理学の紹介から始まった。的確な説明と見やすい図版と音の事例によって大変わかりやすい内容であった。ここでは音の錯覚の一つである無限音階を音楽作品に活用した有名な「Mutations (1969)」と「Music for Little boy」などを紹介した。

ジャン・クロードリセ特別講座



さらに紹介された作品には1989年の作品「duet for one pianist」がある。ヤマハのディスクラピアとMaxによるMIDIプロセッシングを用いた作品で、弾かれたピアノ演奏がMaxによってが拡張されていくシステムを使った作品である。演奏にエコー効果や様々な効果を与えてくれピアノの鍵盤が手も触れずに動きコンピュータによるデュエットが視覚的にも面白い作品であった。

8トラックテープのための作品「共鳴する音空間」は5.1サラウンド作品である。この作品は電子音とミュージックコンクレートが融合した作品でデリケートでとぎすまされた緊張感にあふれたものだ。鐘の音が印象的でフィルター処理された楽器音や電子音が取り巻き動く。照明を落とし音に神経を集中させ音の共振や音の動きを楽しんだ。

もう一人のゲストがバイオリニストで作曲家の木村まり氏であった。リセ氏のライブエレクトロニクス作品「variants」を演奏したが彼女自身もMax/MSPのプログラミングを行うのでリセ氏の作ったプログラムを解説しながら「variants」の初期のバージョンと新しいバージョンの演奏を行った。現在のバージョンはMACとMOTUのオーディオインターフェイスだけのシステムを使っている。MAX/MSPで構成したディレイやピッチシフター、タイムストレッチなどのエフェクト群に小さなラベリアマイクで拾ったバイオリンの音を送り込み信号処理するシステムである。時間の進行やインタラクティブな要素によってエフェクトの設定が変化する。あるフレーズは繰り返されあるフレーズはハーモナイズされ複雑で濃密な音響空間が作り出されていく。幻の弦楽四重奏が演奏しているようだ。木村まり氏作曲のPlytopiaやSubharmonic（オクターブ下や3度、5度のサブハーモニクスを安定して演奏できる超絶テクニック）をフィーチャーした曲などMAXのパッチを説明しながら披露した。

2. 野尻修平氏による富田勲研究室の活動紹介

野尻修平氏は学生時代にコロンビアミュージックエンターテイメント株式会社からサラウンドDVD-AUDIO作品「レスピーギ ローマ三部作」を発表しさらに「ストラビンスキー ペトルーシカ」を発表し現在は大学院（富田研究室）で研究活動を続けながらNHK-BSの番組用音楽からイベント用音楽まで制作を行っている。セミナーでは彼の新作を含むサラウンド作品も披露された。

講演は富田勲氏の2006年NHK-BS Hi-Visionで放送された作品「富田勲 仏法僧に捧げるシンフォニー 鳳来寺山63年目の再訪」を大画面、豊かな音量で上映した。家庭ではなかなか実現できない環境でのサラウンド効果は抜群であり参加して下さった方々にも好評であった。鳳来寺山には鏡岩という大きな岩がありこれによって独特の響きを持っている。鐘の音や様々な音が不思議なディレイ効果によって神秘的な音空間



が作り出されている。いわば天然のDSPとでも言ったらよいだろうか。またこの山にはかつては「仏法僧」が住み独特の泣き声で有名な場所であった。戦前にNHKのラジオで仏法僧の鳴き声を生放送した場所でもある。富田氏は少年時代にこの放送を聞き、またこの山に登ったことがあり山の不思議なサウンドに興味を持たれたとのことである。それから63年経った2006年に鳳来寺山でのコンサートを企画し実現された。この作品ではサラウンドによって鳳来寺山の不思議な音風景が垣間見られ山上でのコンサートの模様が再現されている。「仏法僧に捧げるシンフォニー」はコンピューターやシンセサイザーに音源だけでなく尺八、琵琶といった邦楽器、ホルンセクションとパーカッション、そして地元の小学生によるコーラスからなり山の様々位置に演奏家が配置され演奏された。楽器や声はマイクによって収録された大きなスピーカー群によって鏡岩に音をぶつけることによって天然のリバートとして使っている。さらにこの音もサラウンドで収録されている。小学生たちは富田氏が作詞した歌を歌うが、いなくなった仏法僧と帰ってこいと願う子供たちの歌の掛け合いがそれぞれ離れた場所で歌われる。サラウンド効果が楽しめる演出だ。野尻氏は撮影当日のエピソードを交えながら説明された。

研究室では鏡岩の音の響きを測定したり、かつて鳴いた仏法僧の鳴き声を他の場所で鳴いたものと比較測定したり鏡岩の響きをシュミレーションしたりしておりこの番組の技術的なバックボーンとなっている。このように富田研究室では音楽創作のみならず音響面での研究も進めている。外部の企業と共同でオーケストラやピアノやガムランなどの楽器の録音実験を行い精密な収録、サラウンド録音の可能性の追求も行っている。その幾つかのサンプルの紹介も行われた。最後に富田研究室の見学も行った。研究室というよりも高度なスタジオでMOOGモジュラーシンセサイザーから最新の機器が並んだ部屋は圧巻だ。様々なサラウンド方式が正確にモニターできるようにレーザーポインターでスピーカーの位置を指定することができリファレンスルームとしても活用できる。この研究室からユニークな作品や新しい研究成果が発表されることが楽しみである。

5 MIDI検定委員会

「平成19年度MIDI検定第10回3級、第9回2級1次（筆記）試験」は12月2日（日）の実施ですので目前に迫っています。

今年度のMIDI検定委員会の前半活動を以下にご報告いたします。

MIDI検定の指導者養成についてはMIDI検定4級指導者認定講座を5月20日（日）、27日（日）に東京、大阪にて実施、42名の参加でした。MIDI検定3級指導者講座は7月1日（日）8日（日）東京、大阪にて35名の参加で実施、MIDI検定2級（筆記）指導者認定講座は9月2日（日）、9日（日）東京、大阪にて35名の参加で実施しました。

又、大分県で初めての2級取得者で、今回認定指導者となった日本文理大学の星芝教授の主催するコンピュータミュージックの講座の紹介が大分合同新聞の記事となりましたので大分合同新聞10月17日夕刊掲載から、その記事を紹介いたします。



大分合同新聞10月17日夕刊掲載記事

MIDI検定委員会は7月5日（木）9月6日（木）に実施、今年度のMIDI検定実施に向けた議論、来年度以降の課題に向けた議論及び来年春改訂予定のMIDI検定4級テキスト「ミュージックメディア入門」の原稿の検討を行いました。又、今後の議論の幅を広げていく為に委員を増やしていくという方向で決議されました。興味のある会員におかれましては是非MIDI検定委員会に参加を頂きたくこの紙面を借りてお願いいたします。

MIDI検定の海外展開については、今年も中国では日本と同日に同一試験内容で実施を予定しています。又、8月下旬には（株）エクシング様のご紹介よりフィリピンのMRM Studios 社がAMEIを訪れ、同国での将来のMIDI検定試験実施をにらんで事務局と意見交換をおこないました。

今年度のMIDI検定試験の予定は以下のようになっています。

第10回・MIDI検定3級試験

12月2日（日） 全国60会場

第9回・MIDI検定2級1次（筆記）試験

12月2日（日） 全国60会場

第9回・MIDI検定2級実技試験

※詳細は裏面のお知らせをごらんください



2級（筆記）指導者認定講座

6 透かし推進プロジェクト

透かし推進プロジェクトは2000年5月のAMEI総会で承認を受け各委員会を横断的にまたがるチームとして発足致しましたが、同年1月にAMEI標準電子透かし方式「MIDIsign」を当時のプロテクト部会で採択し商標登録申請したことがその理由でした。プロテクト部会は1995年のAMEI社団化以前から別名称で活動し防止・抑止の技術評価や透かしの階層化研究、1999年の透かし技術公募、透かし埋め込み実験、ISMC規格（International Standard MIDI Code）策定など、MIDIデータの権利保護に重要な要素を開発して透かし推進Pjに引き継ぎました。AMEIとしては著作権（作曲家の権利）と著作隣接権（MIDIデータ製作者の権利）保護について、通算15年近く活動していることとなります。Pj発足後、JASRACが開始した透かし埋込に伴う使用料減額措置（5%）、レコード業界で採択したCCCDによるエンドユーザーの透かしへの嫌悪感醸成、着メロ（MIDI関連規格）への透かし埋込実験、JASRACの巡回ロボットへの協力検討など、大きな波がありました。最近ようやく世間一般での透かしに対する理解と重要性が共通認識されてきております。2007年7月のPjミーティングにて、会員企業の楽器メーカーがネット配信向けMIDIデータへの電子透かし埋込にMIDIsignを利用することを表明し、自社の楽器用に独自の使い方をしてるデータにMIDIsignが影響を与えない為の技術検討を始めました。また別の楽器メーカーも導入検討を開始しております。なお2007年9月より、ISMC規格のライセンス提供中の会員企業にはハードウェアキーをUSB対応にしたMIDIsignエンコーダーを供給しております。これからも皆様のご理解とご協力、そしてプロジェクトへの参加をよろしくお願い申し上げます。

第11回 AMEI NAMM2008

ビジネスツアー会員募集要項

MIDI規格委員会では、今年もMMA Meeting / NAMMビジネスツアーの参加者募集を下記の通り実施いたします。このビジネスツアーでは、日頃の委員会活動を、米国MMA (MIDI Manufacturers Association) メンバーと電子メール等で行っていますが、MMAメンバーも一堂に会するこのNAMM期間中に現地にてAMEI/MMA会合を開催し、相互コミュニケーションを図り、理解を深めることを目的としています。この会合に参加希望されない会員様には、NAMM2008の視察また全日自由行動となっていますので、現地での商談などに、このツアーの利用をお勧めいたします。最新の製品、情報に触れることのできるこの機会をぜひお見逃しなく！

また、今回はツアー初日にロサンゼルス・ハリウッドにある世界最大級の音楽学校 “Musicians Institute (MI)” を訪問します。本校は、全米音楽学校協会による正式な認可校です。創設されたGIT (ギター科) に始まり、現在は、ベース、ドラム、ボーカル、レコーディングの専門コース、さらには音楽ビジネスの学科にいたるまで、総合音楽学校として確固たる地位を築き上げております。また、世界の音楽シーンで活躍する著名なミュージシャンを多数輩出しているのもMIの実力をしめす大きな特徴です。(http://www.mi.edu/index.aspx)

催行期間：2008年1月16日(水)～1月22日(火) 5泊7日
 旅行費用：基本旅行代金：179,000円 (一人部屋追加代金：75,000円)
 利用予定航空会社：全日空
 利用予定ホテル：ホテル メネージ
 最少催行人員：15名
 申込締切：2007年12月13日(木)

※以降空き状況確認の上ご対応いたします。

日程	地名	現地時間	交通機関	予定	食事
1月16日 (水)	成田発 ロサンゼルス着	17:05 09:45	NH6 専用車	空路、ロサンゼルスへ(直行便利用) 着後専用車にて 「Musicians Institute (MI) 視察」へ ＜アナハイム泊＞	機 機
1月17日 (木)	アナハイム滞在			AMEI/MMA Unofficial-Meeting (NAMM2008視察) ＜アナハイム泊＞	× × ×
1月18日 (金)	アナハイム滞在			(NAMM2008視察) ＜アナハイム泊＞	× × ×
1月19日 (土)	アナハイム滞在			AMEI/MMA Official-Meeting (NAMM2008視察) ＜アナハイム泊＞	× × ×
1月20日 (日)	アナハイム滞在			MMA総会参加 (NAMM2008視察最終日) ＜アナハイム泊＞	× × ×
1月21日 (月)	ロサンゼルス発	朝 11:35	専用車 NH5	専用車にて空港へ 空路、帰国の途へ(直行便) ＜機中泊＞	× × ×
1月22日 (火)	成田着	16:25		着後、解散 ～お疲れ様でした～	機 機



※この期間は見本市開催のためホテル事情は極めて厳しい状況となっております。特に今年度につきましては、例年よりも大変ホテルが混雑しております。締切日以降のホテル手配は極めて困難となりますので、締切日までにお申込いただきますようお願い申し上げます。
 日程変更・別手配、通訳の手配などトータルでアレンジさせていただきますので、ご希望の方はお問合せください。

費用に含まれるもの

- ① 日程表に記載した航空運賃エコノミークラス団体運賃
- ② 日程表に記載された団体行動中の乗物料金
- ③ 宿泊代金：1室に2名様ずつの宿泊を基準とします。
- ④ 手荷物運搬料金：お一人様二個 (一個23キログラム以内)
- ⑤ 団体行動中のチップ・税金
- ⑥ 成田空港施設使用料・現地空港税・航空保安料

費用に含まれないもの (上記に記載のないものは旅行代金に含まれません。その主なものを例示します。)

- ① お1人様部屋利用追加代金 (¥75,000-)
- ② 航空機ビジネスクラス利用の場合の追加料金 (別途ご案内)
- ③ 個人的性格の諸費用 (電話代、クリーニング代、飲物費等)
- ④ 旅券印紙代
- ⑤ 超過手荷物運搬料金
- ⑥ 任意の海外旅行傷害保険料 (希望者のみ)
- ⑦ 燃油サーチャージ (往復¥26,600-)
- ⑧ NAMM登録諸費用

旅行企画：(社)音楽電子事業協会 MIDI規格委員会

旅行実施：近畿日本ツーリスト株式会社 東京イベント・コンベンション支店
 国土交通大臣登録旅行業第20号 (社)日本旅行業協会正会員
 ボンド保証会員 旅行業公正取引協議会会員

資料請求

社団法人音楽電子事業協会事務局まで
 TEL：03-5226-8550 FAX：03-5226-8549
 E-mail：webmaster@amei.or.jp

会員名簿

50音順 2007年11月30日現在

あ	株式会社 JEUGIA	ふ	株式会社フェイス
アイデックス音楽総研株式会社	学校法人尚美学園	株式会社フォーサイド・ドット・コム	
アップルコンピュータ株式会社	す	フォスター電機株式会社 フォステクスカンパニー	
い	株式会社ズーム	株式会社フットレック	
株式会社インターネット	株式会社鈴木楽器製作所	へ	
インフォコム株式会社	せ	ベスタクス株式会社	
え	セイコーインスツル株式会社	ま	
株式会社エクシング	株式会社セガ	松下電器産業株式会社	
NECエレクトロニクス株式会社	株式会社セガ・ミュージック・ネットワークス	み	
NTTコミュニケーションズ株式会社	そ	有限会社ミュージカルプラン	
株式会社エムティーアイ	ソフトバンクモバイル株式会社	株式会社ミュージックネットワーク	
株式会社エンターブレイン	た	ミュージックノート株式会社	
お	株式会社第一興商	め	
沖電気工業株式会社	株式会社タイトー	株式会社メロディーズ アンド メモリーズ グローバル	
株式会社音響総合研究所	株式会社ダイマジック	や	
か	株式会社タムラ製作所	ヤマハ株式会社	
カシオ計算機株式会社	て	財団法人ヤマハ音楽振興会	
株式会社河合楽器製作所	ティアック株式会社	ヤマハミュージックトレーディング株式会社	
き	株式会社ディーアンドエムホールディングス	株式会社ヤマハミュージックメディア	
ギガネットワークス株式会社	プロフェッショナル・ビジネス・カンパニー	ら	
株式会社キューブ	と	株式会社ラグナヒルズ	
く	東映ビデオ株式会社	り	
株式会社グリオ	有限会社トゥロッッシュ	株式会社リットーミュージック	
クリプトン・フューチャー・メディア株式会社	株式会社ドワンゴ	株式会社リムショット	
クリムゾンテクノロジー株式会社	に	ろ	
こ	ニフティ株式会社	ローランド株式会社	
株式会社コピーライツ ビジョン	学校法人片柳学園 日本工学院専門学校・日本工	〈以上、正会員会社68社〉	
株式会社コルグ	院八王子専門学校		
さ	日本シンセサイザープログラマー協会	*賛助会員	
株式会社サイバード	学校法人電子学園日本電子専門学校	中音公司 (中華人民共和国)	
株式会社サミーネットワークス	は	株式会社博秀工芸	
し	株式会社ハドソン	株式会社ミュージックトレード社	
株式会社CTA	パナソニック モバイル コミュニケーションズ株式会社	〈賛助会員会社3社〉	
株式会社シーミュージック	び		
JVCエンタテインメント株式会社	株式会社BMB		
島村楽器株式会社			

有限会社 トゥロッッシュ

10月1日より有限会社トゥロッッシュ様が入会されました。
同社では、パペット電子楽器「ケロミン」を製造販売して行きます。
楽器演奏の入り口を増やす一助となれることを願っています。



MIDI検定2級2次(実技)試験実施のお知らせ

第9回2級2次(実技)試験は次の3会場で実施されます

- 東京会場：Windows使用会場 FORUM8 (新大塚ビル1号館 777号)
平成20年2月16日(土)、17日(日)
- 東京会場：Mac使用会場 アップルコンピュータ株式会社トレーニングルーム
平成20年2月23日(土)、24日(日)
- 大阪会場：Windows & Mac使用会場 タイリンビルAAホール3番館4F
平成20年3月1日(土)、2日(日)

主催：社団法人音楽電子事業協会 協力：日本シンセサイザー・プログラマー協会
後援：(会場、機材、ソフト等の協力)アップルコンピュータ(株)、(株)インターネット、(株)オービット・ミュージクス事業部、ヤマハ(株)、ローランド(株)

AMEI NEWS Vol.34 / 2007.11.30
社団法人音楽電子事業協会 機関誌
発行：社団法人音楽電子事業協会 事務局
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9 イトービル4F
TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549
発行人：岩崎修三
編集人：高橋直樹 (広報委員会)
編集協力：株式会社 博秀工芸
ホームページアドレス：<http://www.amei.or.jp/>